

第2回府中市市民協働推進会議 会議録

- 日 時 令和4年7月28日（金）午前10時～正午
- 会 場 府中駅北第2庁舎3階小会議室
- 出席者 （委員）
青山委員、小林委員、隆委員、田中委員、
藤江委員、藤間委員、丸山委員、森村委員、
（事務局）
小塚協働共創推進課長、三宅協働共創推進課主査、本田主任、
高田事務職員、俵原事務職員
- 欠席者 大島委員、鈴木委員、山岡委員
- 傍聴者 なし
- 議 事
 - 1 開会
 - 2 議事録及び修正資料の確認
 - 3 議題
 - (1) 提案型協働事業選考部会の検討状況について
 - (2) 府中市市民協働推進行動計画の進捗状況及び4年間の総括について
 - (3) その他
- 資 料
 - 1 府中市協働事業 第三者評価シート（令和3年度提案型協働事業・案（資料1）
 - 2 令和3年度協働事業実績調査集計表（資料2-1）
 - 3 各事業において主管課が抱えている課題について（抜粋）（資料2-1の補足資料）
 - 4 令和3年度東京外国語大学及び東京農工大学との連携状況一覧（資料2-2）
 - 5 第6次府中市総合計画における市民協働推進行動計画の位置づけ（資料3-1）
 - 6 府中市市民協働推進行動計画進行管理シート（資料3-2）

1 開会

(会長) 定刻になりましたので、第2回府中市市民協働推進会議を開会いたします。事務局から本日の委員の出席状況などについて、報告をお願いします。

(事務局) 本日はご多忙のところ、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、事務局から何点かご報告を申し上げます。

まず、本日の出席状況でございますが、大島委員、鈴木委員、山岡委員から欠席とのご連絡をいただいております。また青山副会長ですが、ご都合により少し遅れていらっしゃるということですので、定数11名中8名の委員の皆様に出席をいただいております。

したがいまして、過半数に達しておりますので、本会議は有効に成立していることを併せてご報告します。

続きまして、本日の傍聴ですが、傍聴者の申し込みはございませんでした。

(※資料の確認)

それでは最後に、本日の流れについて申し上げます。本日の議題については2点ございます。それぞれの記載の項目についてご報告、ご議論いただくものでございます。

事務局からは以上でございます。よろしくお願ひいたします。

(会長) はい、ありがとうございました。

資料の確認と本日の議題についてお話がありました。本日の議題については、提案型協働事業選考部会の検討状況についてと、市民協働推進行動計画の進捗状況及び4年間の総括についてという2つの議題になっています。改めてよろしくお願ひしたいと思ひます。

2 議事録及び修正資料の確認

(会長) それでは、議事を進めます。

前回6月17日に実施した第1回目の会議の議事録と修正資料につきましては、事前にご確認いただき、修正等をメールで頂いております。頂いたご意見を踏まえて修正した議事録をお手元にお配りしておりますのでご確認ください。

また、その他、修正等ご意見はございますか。

よろしいでしょうか。それでは、議事録及び資料ともに確定いたします。事務局は、前回の議事録及び資料を公開するよう手続きをお願いします。

3 審議事項

(1) 提案型協働事業選考部会の検討状況について

(会長) それでは、議第1「提案型協働事業選考部会の検討状況について」、本日鈴木部会長がご欠席のため、田中部会員よりご報告をお願いします。

(田中部会員) 提案型協働事業選考部会ですが、7月11日に開催された令和3年度の提案型協働事業の報告会に出席し、部会として3事業の評価を実施しました。評価結果については資料1のとおり、「子育て講演会の実施と子育て応援パンフレットの作成」がS評価、「ラッコルター創造素材ラボの仕組みづくり」がS評価、「武蔵府中郷土かるた選手権」がA評価としています。

まず「子育て講演会の実施と子育てパンフレットの作成」の評価結論ですが、「事業目的や解決する課題がしっかりと共有されており、それぞれの強みをいかした役割分担のもと協働の効果が発揮されていた。パンフレットは子育て当事者の視点がいかにされた内容で、非常に完成度が高く、セミナーについても、コロナ禍に対応するためオンラインで開催するなど、工夫がされており評価できる。今後パンフレットの更新にあたっては、様々な部署や関係機関と連携し、掲載情報を充実させ、市内のパパ・ママに活用されることを期待する。」としました。

次に、「ラッコルター創造素材ラボの仕組みづくり」は「体験学

習を通して自由な発想から作られるアートの世界は、モノの見方（廃棄されるものの活用）を創造的に感じる仕組みとなっており、子どもの教育にも有益である。地元事業者から廃棄されてしまうものを素材として提供してもらおうという点は珍しく、地元事業者を巻き込む地域密着型ワークショップが評価できる。」としました。

最後に、「武蔵府中郷土かるた選手権」は、「コロナによる影響で大会が中止となったため、事業の実績を評価することはできないが、中止が決定する前までの過程等を評価した。楽しみながら、子どもたちが府中の素晴らしさを知り、子どもの心に郷土愛を育む事業として、本事業はとても有益であり、市担当課と団体の関係性が構築されているほか、協賛事業者も多いことから、団体の適切な財源確保による事業の継続を期待する。」としました。

以上3事業ともにそれぞれの特性をいかし、市との協働の視点を持ちつつ、事業と事業の目的に沿った独自性のある展開がそれぞれなされていることがヒアリングを通じてよく理解できたので、このような結果となっております。

(会長) ありがとうございます。田中委員、何か部会に参加してみて感想はありますか。

(委員) 今お伝えしたとおりなのですが、ヒアリングのところで担当の各団体と担当課の方が両方とも壇上に上がるわけなのですが、そちらでそれぞれの役割分担をされている様子が3事業ともに感じられて、まさに協働の姿勢という姿が見えたのが非常に良かったかなと思いますし、3事業ともに内容的に市役所の事業として独自に行うのが難しいものなので協働という形で市役所の協力があることによってやりやすかったのかなということでお互いに協働の良い効果が出ているなと聞いていて思いました。

(会長) ありがとうございます。それでは、同じく部会員として参加していただいた藤間委員にもお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員) 今、田中委員がお話したとおりなのですが、少し付け加えるとお手元に資料1がありますよね。今回3人の委員でヒアリングを受けて、相談をしてこの評価シートのとおりにもとめたのですが、3人とも全く意見が一致しまして、特に異論がなかったという意味では、今回のこの3案件、行政型が1件、市民型が2件に関しては、内容的にも団体的にもしっかりしており、また市のサポートもすごく良かったというのが全体評価です。そういう中で具体的に私が印象に残ったことは、資料1の1番目の子育て講演会の実施と子育て応援パンフレットの作成については、「2 事業について」の最後のところで、こちらの団体からは人件費について見てくれなければ協働事業については今後新たな参加を考えるとというような発言があったのですが、市の方で令和5年度については人件費を経費として見るというお話があり、また団体の方もすでに令和5年度の募集要項にその旨の記載があることを知って、引き続き機会があれば参加したいというようなお話があったのは、すごく印象的でした。そういう面で市は各団体の状況をよく見てタイムリーに対応していると感じました。そのことが団体の引き続き協力していくという発言を引き出したと考えると、市の担当者あるいは部や課を高く評価したいとは思いました。それから2番目のラッコルタについては、令和3年度と4年度に実施する2年連続の案件のため、3年度についての報告でした。新たに参加した事業者なので今後府中市の中でいろんな関係者と関係を新たに持って活動していこうということで3年度から始めたということですが、事業内容としてすごく良いので、今年度、それから5年度以降も事業が続けられるのではないかと、つまり4点目の事業の継続性についていろいろ考え、令和4年度で補助金としては終わってしまうけれども、今後のことについて4年度にしっかり考えて事業が継続できればいいなという思いを抱きました。それから3番目の郷土かるたについては、こちらも令和2年度と3年度の2年にわたる案件でしたね。令和2年度と3年

度ともコロナのために実施できなかったということでしたが、市の方で実施していなくても報告はしてほしいということで今回3年度の事業について報告していただいたという経緯がありました。ここについては市の担当課の方のサポートがしっかりしているので、今年度から補助金がなくなってしまうですが、そういう中でこの事業を継続する協賛金等他に何か団体の財源を確保して継続できることを私自身も望みます。

(会長) ありがとうございます。委員の皆さんから質問はございますか。

(委員) 評価の方、ご苦労様でした。当日私も少しお伺いして、どういうスタイルでやるのかを見ていましたが、まず我々が一生懸命やっているわりには、市民は来ていないなと感じました。もちろん実際にやっている方の気合は大事かもしれませんが、やはり拍手・応援というのがあってこそそのものだと思います。だからそういう意味では、市民全体に対する呼びかけが足りていなくて、自己満足に陥っているのではないかということを感じました。確かに個々には事業の年数や人件費といった細かい問題はあると思います。2年3年と続けていけるような方向に動いています。だけどそれを市民全体が知らなければ、単年では申し込めないといったような意見もいろいろ出てくると思います。もう少しいろんな方に来ていただけるものだと私は思っていました。誰もいないので、部会員の皆さんが一生懸命やってくださっていたのに申し訳ないですが、後ろでの拍手がないとやはり寂しいなと思いました。

(会長) ありがとうございます。その他何かございますか。

(委員) ママチャーズさんの子育て支援のパンフレットとアーティスト・コレクティブ・フチュウさんのラッコルタという事業の採択の時、参加させていただきまして、いろんなお話を聞いてどうなるのかなあと思っていたので、このように終わった後にS評価を頂けたのは大変嬉しいですし、成功したのだなあと思いました。しかし、やはり今委

員がおっしゃったように知られていないと思います。私はママチャリーズの方を個人的に知っているのですが、こんなパンフレットがあるということを見せられて、子どもがいないのでそういったことに縁遠いところもありますけれども、とても素敵なパンフレットが出来上がっていたことを初めて知りました。それに、ラッコルタさんの活動については事業がこうやってちゃんと継続しているということを申し訳ないのですが知らなくて、いつやっていたのか気になって今検索してみたらやっていたのだということが分かりました。市民協働推進会議の委員である私たちで認識がないようであれば、せっかくいいことをやっても協働と無縁の市民の方のところには届いていないと思います。ですので、もっともっと協働共創推進課の力もお借りして PR して、こういった協働が成功したということをもっともっと市民に広げて、そうすれば毎回2件とか3件ではなくて、もっと競うように10件来て、誰が審査するのか、どれだけ時間がかかるのかを悩むくらい協働が活発に動いていく、そんな府中市になったらいいなと感じました。

(会長) 具体的なアドバイスを頂きありがとうございます。その他何かございますか。

(委員) 補足なのですが、我々が聞いたお話ではママチャリーズのパンフレットは年齢別に書いてあって、事業内容にありますように3・4カ月、1歳6カ月、3歳とあり、全体と年齢別に3冊それぞれ作ってありまして、配布状況をお伺いしたところ令和3年度に作成して4年度から順次利用していくというようにご説明がありました。ですので、これからどんどん普及されていくと思います。

(会長) 他はいかがでしょうか。

(委員) 部会員の皆さん、ありがとうございました。私は少し違う視点で気づいたことを共有したいとお話したいのですが、今回のこの評価はSからDまで評価段階がある中で、SやAをつけていただいたと

思いました。お話を聞いているとまず協働の事業として優れているかどうかを評価されると思うのですが、1つ気になった点として、この事業目的というところに注目した時に、事業目的を最初に掲げているわけですから、その目的が達成できたのかどうかという評価は、私が今お話を聞いた限りでは多分ないのだろうな、もしくは少ないのかなと考えました。協働という活動が上手くできたかというところは評価されているように思いますけれども、目的を達したかどうかというところについて触れている部分が少ないように思ったので、この点について確認させていただけると嬉しいです。

(会長) ありがとうございます。今のご質問ですが、当初から携わっている立場なので流れを含めて少し補足したいと思います。今の評価は事業としての協働性について非常に重点を置いて評価していると言ってくださったと思うのですが、これはシートの作成方法も含めて狙い通りです。いろんな事業がありますが、協働といっても幅がありますし市民の方が主導しても8、9割方やっていただくというのがありますし、逆の構成もあります。ですから様々な形や名称があります。そうした中でやはり一緒にやっているかどうかというところの準備段階、あるいは後の方も含めてこの辺は強く意識して評価をしていくということで現在のフォーマットになっているところがあります。ただ事業目的を達成するかどうかは当然評価のところに反映されているものなので、強く触れられてはいませんが、そのうえで先ほど言ったように市民9割行政1割みたいな形で、市民が主導でやってきているので事業目的が達成されていてとても良い取組だけれども協働という点ではかなり依存しているかもしれない、つまり目的だけで達成したかを評価すると協働性が希薄になってしまい良くないのではないかとということで今の形になっています。そういった背景から、狙いとして協働性をとても重視した評価作業であるということをご理解いただけたらと思います。

(委員) 目的達成はもちろんのこと、さらに協働としてどうなのかというところを見ているということなのですね。目的度外視で協働されている方もいらっしゃるのです。それで良いのかという疑問もあってご質問させていただいたのですが、目的を達成しているのは当然で、そのうえで協働として上手くいったかをここに表現しているということですね。ありがとうございました。

(会長) 他にご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

部会を作って、部会員3名の方に作業に携わっていただき、時間と労力を割いていただいて大変な作業をしていただいておりますが、この委員会でその結論を承認するというような形でやってきて、その辺のやり方もまだ少し考える点があるのかなということでの発言があったと思いますし、新年度に入って総合計画も、YouTubeにてPRが行われていますし、こうした選ばれた事業についても、後からのフォローとして一般市民の方やこれから応募したいと思う方にもヒントになるような情報の発信も必要かなと思います。コロナ禍ということもありできなかった事業もありますが、そういう中でできた事業もあるので、今のような形も含めて発信をして、応募の数を増やしていくことも大事な部分であります。そうしたことも含めてフォローのところでの発信について、審査をする時はある意味で一番気合が入るところかもしれませんが、その後の当日のことや結果の報告などもできるだけ協働ということで、情報も含めて共有するような形をさらに考えていった方が良いのではないかという意見としてまとめておきたいと思っております。

それでは、評価結果について確認いたします。令和3年度提案型協働事業の評価結果は、資料のとおりということでよろしいでしょうか。承認していただけますでしょうか。

(※異議なし)

(会長) ありがとうございます。

(2) 府中市市民協働推進行動計画の進捗状況及び4年間の総括について

(会長) 続いて、議題2「府中市市民協働推進行動計画の進捗状況及び4年間の総括について」、事務局からお願いします。

(事務局) それではご説明いたします。

はじめに、資料2-1及び資料2-2についてご説明いたします。

資料2-1及び資料2-2は前回の会議で委員の皆様よりご指摘いただいた点について、修正したものを改めて資料とさせていただいているものでございます。

まず、資料2-1につきましては、修正箇所は4点ございます。

1点目は、No. 118、119の「協働の相手先」の誤記を修正いたしました。

2点目は、No. 120の事業が記載漏れとなっておりましたので、追記いたしました。

3点目は、各事業の課題の一部を抜粋した補足資料を作成いたしました。

4点目は、各事業の新規・継続を一番右の欄に追記いたしました。

なお、各課の感じている課題につきましても、資料2-1の補助資料として配布させていただいておりますので、ご覧ください。

また、令和2年度から令和3年度で役割分担が変わっている事業については2事業ございました。

1事業目は、「No. 37 インフラ管理ボランティア制度（府中まちなかきさら）」で、令和2年度は、市の役割は、「労務提供、物品提供・貸出、広報協力・後援、技術・情報提供、その他（ボランティア保険の加入）」でしたが、令和3年度は、これまで花壇の管理について委託で行っていたものを、ボランティアによる管理としたことにより、市の役割が「物品提供・貸出、広報協力・後援、技術・情報提供、その他（ボランティア保険の加入）」へと変更になりました。

2事業目は、「No. 115 協働のまちづくりノート」で、令和2年

度は、ワークショップの実施とノートを作成であったため、市の役割は「イベントの参加・職員派遣、労務提供、企画、会場提供、広報協力・後援、委託」、相手先の役割は「イベント参加・職員派遣、労務提供、企画、物品提供・貸出、技術・情報提供」でしたが、令和3年度は令和2年度に作成したノートを活用した市内の小中学校での授業を実施し、また新たに続編のノートを作成したため、市の役割が「講師・専門家の派遣、イベント参加・職員派遣、労務提供、技術・情報提供」、相手先の役割が「労務提供、企画、物品提供・貸出、会場提供」へと変更になりました。

どちらの事業についても、令和2年度から令和3年度で事業内容の変化に伴い、役割分担も変化しておりますが、順調に実施されております。

次に、資料2-2につきましては、大学との連携事業についての資料となっておりますが、協働事業実績調査の形式に合わせ、新規・継続の区分と役割分担を追加いたしました。

続きまして、資料3-1についてご説明いたします。

こちらは、第6次府中市総合計画における市民協働推進行動計画の位置づけを示しているものでございます。参考として、第6次府中市総合計画後期基本計画の指標実績の推移を記載しており、こちらの4つの数値目標を達成するため、市民協働推進行動計画を策定し、各取組を進めた結果、いずれもこの4年間で達成することができております。

また、令和3年度で行動計画は最終年度であるため、今後については第7次総合計画の各施策に記載している「協働により推進したい取組」について、進捗管理を行うこととしております。

なお、具体的な進捗管理の方法については、現在関係課と調整中でございます。

続きまして、資料3-2をご覧ください。

府中市市民協働推進行動計画の進捗状況につきましては、「府中市協働事業等評価制度実施基準」において、原則として、毎年度、進捗状況を把握し、本会議に報告することとなっています。

はじめに、令和3年度の実績についてご説明いたします。

施策としては、35施策ございまして、35施策中、「計画通りに進んでいる」が35施策、「計画通りに進んでいない」、「完了」、「未着手」はございません。

また、令和3年度をもちまして、行動計画の最終年度となるため、平成30年度から令和3年度までの4年間の総括についても、施策ごとに評価しております。

評価については、「A：計画以上に達成することができた」、「B：計画通り達成することができた」、「C：計画通りに達成することができなかった」、「D：全く達成できなかった」の4段階で評価しております。

評価の結果としましては、全35施策中、「A：計画以上に達成することができた」が2施策、「B：計画通り達成することができた」が33施策、「C：計画通りに達成することができなかった」及び「D：全く達成できなかった」はございません。

「計画以上に達成することができた」の2施策について、ご説明させていただきます。

まず、番号1「市民協働シンポジウムの開催」ですが、こちらは、市政世論調査における協働の認知度が令和3年度の目標値である50%を超え、57.1%であったため、評価をAとしているものです。

次に、番号12「市民活動・市民協働に関する提供情報の拡充」ですが、これまで「コミュニティサイトふちゅう」を活用し、市民や各活動団体等に情報発信を行ってきたところですが、IT企業との協働で新たな市民活動ポータルサイト「プラ net」を構築し、デザイン面や操作性、検索性を向上し、SNSとの連携や動画、マップ等も活用した

情報発信力の大幅な強化をすることができました。

また、本サイトを運用することで、市民活動団体だけでなく、社会貢献活動に取り組む企業や自治会、学校、府中市各課含め約500団体が登録できるようになり、各団体間のマッチングも活発化し、オンライン協働まつりをはじめ、コロナ禍でも対応できるICT化を一気に進められたため、評価をAとしているものです。

委員の皆様方と進めてきた行動計画について、この4年間の総括として、本日お配りした資料をメモ用としてご活用いただき、進展したことや課題について、ご意見くださいますようお願いいたします。

(会長) 説明が終わりました。ご質問等はいかがでしょう。

(委員) 質問で、資料2-1の補足資料を読んだのですが、表題のところに「各事業において主管課が抱えている課題について（抜粋）」とありますが、少し気になったのが2番の「担い手の高齢化と事業の持続性に関するもの」というところで、これは主管課が抱えているというか主管課から見て各団体に対しての委員の高齢化や団体員の高齢化なのか、役員改選だったけど推進委員の高齢化ということなのか、捉え方が分からなかったので確認をさせていただければと思います。

(事務局) 今委員がおっしゃった通り、各主管課と一緒に事業をしていく中でこういった課題が各団体に見えるのではないかとこのところでも頂いたご意見になります。

(会長) よろしいでしょうか。その他はいかがでしょう。

(委員) たくさんあるのですが、まず1つ目に今の関連の話で、資料2-1の補足説明には、主管課が抱えている課題が大きく3つ書かれていますが、これら課題を解決するためには、「府中市市民協働推進行動計画」（以下、「行動計画」）のどの施策に当て込んで改善を進めていくかという項目が見つけられませんでした。そこで行動計画を見直すことを提案します。理由は2点あり、1点目は上記の課題を解決するた

めの取組を行動計画に反映すること、2点目は今年度から第7次総合計画が始まり、第6次総合計画とは異なる施策の追加等もあるので、それにフィットしたような形で今回の行動計画を見直した方が良いのではないかということです。市としては、見直しをすることを予定していますか。それとも見直しはしないで今の行動計画をそのまま継続していくという考えなのか、まずこの点を伺いたいと思います。

(事務局) ご質問ありがとうございます。まず行動計画につきましてこれまでの行動計画をそのまま進捗管理をしていくかという趣旨だったかと思いますが、こちらの行動計画は一旦3年度で終了しまして、総合計画の第6次、第7次が変わったというお話もありましたが、今度は第7次の総合計画の施策ごとに協働により推進したい取組というものを掲げることとしましたので、こちらの施策に沿って進捗管理をしていくということを予定しております。こちらは今年度中に詳細を決めて各課と調整を進めていきたいと考えております。

(委員) 今は行動計画をただ単に見直すというよりかは作り直すということによろしいですか。

(事務局) 新たに作り直すということではなくて、進捗管理の方法を総合計画の進捗管理に合わせるという形になります。

(委員) そうすると資料3-2の1番最後のページに書いてある項番32について具体的に説明を求めたかったのですが、一番右の項目に「第7次府中市総合計画と連動した進行管理ができるように関係課と調整し、進めていく」とあります。この表記が意図することは、今までは協働については協働推進計画に基づいてやっていたけれども、手間がかかるので、新たな手法を取り入れるということですか。

(事務局) こちらですが、今やっている行動計画については基盤整備を主としておりまして、実施をする担当課である旧協働推進課がほぼ施策の大半を担っており、関係課が少しずつ関わりながら実施をして基盤を整備してまいりました。協働の基盤がある程度整備できたということで、

今後は市全体の各課の取組で協働を実施し、それを進捗管理していくということで対象を広げるような形で考えております。協働推進課が中心にやっていたものを全庁的な取組として行って、市が掲げる総合計画に沿って進捗管理をするということなので、少しレベルアップして市全体できちんと取り組んでいくというふうに考えております。

(委員) 資料3-2は協働の推進計画に基づいた項目に分けてそれぞれ書いてありますよね。推進方策1から10までということで、これはまさしくこの計画に基づいてどうだったのかという項目を評価したものであるから、令和4年度からは別の形に見直すということですよ。そうすると具体的にどうするかはまだわからないということですか。

(事務局) 今総合計画の進捗管理を行政評価という形で事務事業評価や施策評価という形でやっております、その施策評価も評価項目の1つに入れて実施をしていくような形で調整を進めております。

(委員) 次の質問よろしいでしょうか。資料2-1はまさしく総合計画に基づいて表を取りまとめて、1ページ目を見てみると施策番号や施策名の表記があり、この施策番号は総合計画とリンクしていますが、施策というのは令和3年度までだと83あって、数えたところ32の施策についてはこの表の中にありません。おそらく重複しているものもあると思いますが、この表の構成として施策番号は1個ずつ挙げているので、総合計画の中には83の施策があるけれども、実際にこの表には152あって、152を消し込んでいくと32の総合計画については、消し込みができないという状況です。それはいいのですが、32の施策について個々を見ると協働の項目がないとおかしいのではないかと個人的に感じるものがいくつかあったので、資料2-1は今回1件追加していただきましたけれどもまだ漏れているものもあるのかなということも感じていて、そこについては特に修正しなくても3年度終わりのものをわざわざ直す必要はないと思いますが、総合計画でまとめるものと、行動計画でまとめるものの2つの指標をもって消

し込んでいくことがすごく大変な作業だと思います。一方で資料3-2のところでは第7次総合計画に基づいて見直しをしているということなので非常に良いことだと思います、具体的にどのような見直しを行ったのか知りたくてご質問しました。もし分かれば教えていただきたいです。

(事務局) こちらの意図するところをおっしゃっていただいております。おっしゃっていただいた通り資料2-1では施策番号に全て対応ができていないような状況になっておりまして、それを回避するためにも施策ごとに協働により推進したい取組というものを項目として設けて、そこにきちんと評価をしてもらい全ての施策に対してどのように進んでいるかということ把握できるようにしたいと考えております。

(委員) また別件で、資料の3-1ですが、下段の参考の④の令和3年の181件とありますが、この内訳は160件+7件+14件ということですか。つまり、資料2-1で160件あり、大学について外大が7件、農大が14件ということだと思います。そうすると資料2-1については163件で3件減らしていますが、1番と3番と134番の事務事業の項目に該当なしと記載しているものを除いているということでしょうか。この該当なしとはどういうことなのかということをお聞きしたいです。

(事務局) そちらについては各課からの回答で該当する事務事業はどれかと照会をかけた時に該当なしとの回答があったものですので、先程の件数から減らすといったものには影響がないものと捉えております。件数の方は改めて確認させていただきたいと思います。

(委員) 最後に1点だけ、資料3-2の1ページ目の目標2のタイトルのところに、「新たに協働に取り組もうとする市民への参加の機会づくり」と書いてありますが、行動計画の見直し後を見るとここだけ項目名が変わっています。今書かれているのは見直しをした平成30年1月よ

り以前の言葉になっているので、見直し後は最後が「機会づくり」ではなくて「機会の提供」という言葉になっていると思うので、たまたま突き合せた時に気がついたのでお伝えしておきます。

(会長) これは確認後、対応するようにしていただきたいと思います。その他何かございますか。

(委員) 2点お聞きしたいです。まず1点目は先ほどの委員のご質問とも関連しますが、例えば東京外大の場合は事業数が13件となっていますが、これは先ほどの資料3-1の事業数の総合計の181件の中に13件として入っているのか、それともコロナによる中止等のものは省いているのかということが少し引っかかったので、改めてお尋ねいたします。それから個別の話になりますが、資料2-2の1番目に「図書館各種事業への講師派遣協力」というのがあって、これは区分では新規となっているので、これからやろうとしていたところがコロナにより中止になった、もしくは派遣自体もそもそもしなかったというふうに書かれていますが、ここは今回の資料2-1の補足資料にもありましたようにコロナがなかなか収束してくれない中でどう継続するのかという問題提起が挙がっておりますが、外大の場合オンラインでやる授業というのが教員の方はもうかなりノウハウが定着していますので、もし可能であればオンラインでやっていくといったことも十分にあるのかなというふうに感じました。全体の数の話と、それから個別の事業についてのご質問です。

(事務局) 件数についてですが、コロナ等で中止になったものについては除いてカウントさせていただいております。個別の事業につきましては、オンライン等というところで各担当課と大学の各担当部署とで連絡調整等を行っていただいて、今後オンラインを活用することも事業ごとに進めていければと考えております。

(委員) コロナによって行われなかった事業については、数値から除いているというお返事いただいたので、気になったのは先ほどのご報告の最

初の議題で郷土かるたのかるた大会がありました。これは事業としてはすごく進んでいるけれども残念ながら実際のかるた大会自体はコロナで中止になったというところがあって評価としてはA評価を取っており、資料2-1の119番にありました。大学の場合実際に実施しなかったのでカウントしませんという話でしたが、119番のかるた大会は、準備を進めていたが結果中止になったというのは最終的にカウントされるかどうかということで、数の出し方に多分影響があると思いますので念のため確認させていただきます。

(事務局) かるた大会については実施直前まで準備を進めていたので、実際は中止になってもカウントしておりますが、大学の場合は実施に向けて準備を進めていたのかどうかを把握しきれていないので、準備を進めていて中止になったのか、もしくはコロナによって最初から計画されなかったのかを確認したうえで対応したいと思います。

(委員) 資料3-2の30番についてですが、この35件について全てAかBだったということでした。そういう中で30番については、平成30年、令和元年については計画通り進んでいなかったけれどもそれ以降頑張って進みましたということでした。ただ4年間の評価を見ると今後頭打ちみたいな形の項目が書いてあります。そして「専門的な知識経験を有する者を委員とする場合や設置期間が長い機関については、改善が困難である」という記載について、私自身としては全ての協議会や審議会等々には市民公募という形ではなくとも、市民を加えるべきだと思っています。例えば専門的な知識とか経験を有することが課題であれば、市民公募の中の前提条件の中に入れてほしいと思います。あくまでも市民公募だけでもこういう前提の人をという形でやればいわけなので、できればここについては頭打ちになってしまうので、何か工夫や改善が必要ではないかと感じました。

(会長) ありがとうございます。資料3-2の備考欄についての具体的な記載があるのは、ここだけなので目立つところです。備考欄の記載内容

が改善策に関わるようなこともありうるでしょうし、この表現自体が「困難だ」と書くか「困難であるけれども追求していくべきだ」と書くかによってずいぶん受け取り方が違ってくるので、私の個人的な意見ですが、どれくらいの割合が適正かというのは、やはり先ほど言われたように市民協働の定義も非常に幅があるものなのですが、そういった意味でもここでいう専門的な知識とか経験を有する方が結構入られているというふうを考えられます。ちなみに設置期間が長い機関というのはどのくらいの長さの機関、具体的にどういった委員会を想定していますか。

(事務局) 設置期間が長い機関というところについては、確認をしていないため、またこちらで確認をさせていただければと思います。申し訳ございません。

(会長) 備考欄にこういう追記を入れるかどうかについては、他のところに記載がないのでここだけ言い訳のように読み取られてしまうこともあるでしょうし、総括のところでも具体的に働きかけの話も書いてあるので無くすとするのか、市民枠というところの解釈を協働の指針にも図で広く示しているのであえて残しておくかという問題はありますよね。

(委員) 私が言いたいのは、このテーマについては進めるべきで、当該課としては相手の方がこう言ってきているが、そこは工夫して先ほど私が言ったように、ある条件を付した市民公募のような形であくまでも市民公募は追求していくというところを担当課に示して、担当課の方で考えていただくということを推進することが大事だと思っています。

(会長) そうすれば、各所管課には働きかけていくことが、備考欄の左の部分の表現にもありますし、あえて備考欄に残さなくてもいいかなというふうに思います。皆さんはこの点についていかがでしょうか。その備考欄を残すか、残すとすれば表現をどうするか、またはこのままで行くという選択肢もあると思いますが、いかがでしょう。

(事務局) 今頂いているご意見は、この行動計画の総括を行ううえで非常にありがたいご意見であり、課題だと思っております。最終的にはメモに出させていただいたように全体総括と課題という形で取りまとめたものを今回の総括という形でまとめていきたいと思っております。今回備考欄は1つしか埋まっていない形になっておりますので、課題ということであれば会議の中で取りまとめをしていただければいいのかなと感じましたので、そういったものを含めながら備考欄の扱いをご検討いただければと思います。

(会長) ありがとうございます。今日の時点では、備考欄を外して他のところで出た課題を次回の会議資料の作成に繋げていただくということで、よろしいでしょうか。

(委員) 今のお話で良いと思いますが、少し遡ってみると過去の部分も含まれてしまっているテーマがあるので、4年間の総括のところだけの話ではないと感じました。この辺を確認したうえでお答えをいただく必要があるかと思いました。

(会長) ありがとうございます。今の点も踏まえて資料を作成していただきたいと思えます。その他いかがでしょう。

(委員) 備考欄で私が気付いたのは、まず単年度で書かれている備考欄の中には特記すべき事柄もあるように思います。そういうところは何らかの形で見える形で残しておくことが適当かなと思いました。それから先ほどから議題に挙がってごいた30番の備考欄ですが、これは単年度ではなくて4年間全体の総括の中の備考欄ということで、おそらくこれは推測ですが、初年度の頃には計画通りに進んでいなかったけれども最後頑張って計画通りに達成することができたというところの説明としてこの備考があるのではないかと思います。ですから、「改善が困難である」という記載の「改善」というのはおそらく公募委員が在籍している期間の割合が最終的には13.4ポイント増加したということを示していると理解しました。そうするとなかなか初年度の

頃に改善が難しかった要因として、1つは参加する委員の専門性・経験が要件となっている委員会があるということと設置期間が比較的長いので市民公募で応募していただきにくいという課題があるという説明だと考えましたので、少し文言をより肯定的もしくは積極的に書けば十分にこの表記は残してもいいのかなというふうに感じております。

(会長) 表の構成について過去に記載された備考欄を4年間の総括としてどういう形で残すのかということで、先程他のところの課題等も含め一覧にしていくというような形でお話しましたし、そういう資料はあった方がいいかと思えます。そのうえで総括のところをどういう扱いにするかは改めて次回再確認していきたいと思えます。その他いかがでしょう。よろしいですか。

それでは、2つ目の議題についてお時間いただき、丁寧に確認作業をしていただきました。事務局の方も丁寧な対応ありがとうございます。

(3) その他

(会長) それでは、最後にその他として事務局から何かありますか。

(事務局) 次回の会議の日程についてお伝えいたします。

次回は9月30日(金)午前10時から行います。

事務局からは以上でございます。

(会長) それでは、次回の会議は9月30日ということで、よろしくお願います。他になければ、以上をもちまして閉会いたします。お疲れさまでした。

以上